

ぎかい

小国町議会だより 第114号



2012.10.17

平成23年度 決算を認定

主な 内容

■ 9月定例会概要	2～3 ページ
■ 決算審査特別委員会Q & A	4～5 ページ
■ 決算審査特別委員会報告書	5 ページ
■ 一般質問	6～10 ページ
■ 委員会レポート	11 ページ
■ まちかどインタビュー	12 ページ

表紙写真／おぐに大宮神社1300年祭 稚児行列

小国町議会

ホームページ <http://www.town.oguni.yamagata.jp/gikai/index.html>
e-mail gikai@town.oguni.yamagata.jp

小国町議会

検索

われ認定

平成24年度
9月定例会
9月10日(月)～18日(火)

9月定例会は9日間の日程で開かれ、平成23年度各会計の決算12件を決算審査特別委員会で審査後、本会議で賛成多数により認定、24年度一般会計補正予算など8議案、条例の一部改正、財産取得、規約の一部改正を原案通り可決、教育委員3名の新任に同意した。その他2件の意見書を関係機関に提出することにした。一般質問は5名の議員が当面する諸問題を盛田新町長に質問した。

一般会計補正

総額4億3千338万円
の追加補正を可決

- ◆ 財政調整基金積立
- ◆ 除雪対策基金積立
- ◆ 学校建設基金積立
- ◆ 町有自動車更新
- ◆ 特別職報酬審議会費用
- ◆ まちづくり戦略会議
- ◆ 不活化ポリオ予防接種委託
- ◆ 林道維持業務委託
- ◆ 農業用水路整備工事
- ◆ マイクロ発電システム
- ◆ 導入・実証事業
- ◆ 冬季除排雪作業委託
- ◆ 町営住宅解体等工事
- ◆ その他

特別会計補正

- ◆ 下水道事業
- ◆ 介護保険

事業会計補正

- ◆ 水道事業
- ◆ 臨時職員の雇用経費
- ◆ 工業用水道事業

条例の改定

- ◆ 小国町有牛貸付条例の一部改正

財産の取得

- ◆ スクールバス1台
- ◆ 予定価格1千189万円

規約の一部変更

- ◆ 山形県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更

教育委員

教育委員の任命に同意した。



◆ 柴田 伸也氏
大字小国小坂町3の75



◆ 高橋 和衛氏
大字伊佐領530の15



◆ 石山 久美子氏
大字小国小坂町54の乙

臨時議会

8月28日、平成24年度第7回臨時議会が開催され、一般会計補正予算、小国小学校改築工事請負契約の締結など4議案が審議され可決した。主な内容は次の通りです。

- ◆ 一般会計補正
 - ◆ 農林水産業創意工夫プロジェクト支援 (もみから利活用PJ)
 - ◆ 事業費491万円
- ◆ 小国小学校改築工事等の請負契約の締結
 - ◆ 請負契約者 那須・山和・高橋特定建設工事共同企業体
 - ◆ 事業費23億1千万円
- ◆ 屋内運動場建設工事の請負契約
 - ◆ (ふれあいの家代替施設)
 - ◆ 請負契約者 山和建設㈱
 - ◆ 事業費3億975万円
- ◆ 専決処分の承認
 - ◆ 「暴風・豪雪被害施設復旧等緊急支援資金」利子補給費の追加

平成23年度決算 有効に使

■平成23年度各会計決算

(単位：円)

会 計 別	歳 入 (A)	歳 出 (B)	差 引 額 (A - B)
一 般 会 計	6,616,809,625	6,216,831,088	399,978,537
簡易水道事業特別会計	57,790,469	25,650,863	32,139,606
国民健康保険事業特別会計	891,304,824	835,049,318	56,255,506
部落有財産特別会計	112,472,463	685,500	111,786,963
下水道事業特別会計	305,926,386	302,526,320	3,400,066
訪問看護特別会計	84,272,619	72,645,178	11,627,441
介護保険特別会計	873,623,710	863,277,187	10,346,523
後期高齢者医療特別会計	96,698,036	91,451,018	5,247,018
合 計	9,038,898,132	8,408,116,472	630,781,660

■病院事業会計

(単位：円)

収 入	医 業 収 益	医業外収益	特 別 収 益	計
入	671,588,876	241,032,005	0	912,620,881
支 出	医 業 費 用	医業外費用	特 別 損 失	計
出	846,657,905	54,096,732	1,501,861	902,256,498
収 支 合 計	10,364,383			

■水道事業会計

(単位：円)

収 入	営 業 収 益	営業外収益	特 別 収 益	計
入	98,191,344	462,166	0	98,653,510
支 出	営 業 費 用	営業外費用	特 別 損 失	計
出	71,686,975	3,622,322	0	75,309,297
収 支 合 計	23,344,213			

■工業用水道事業会計

(単位：円)

収 入	営 業 収 益	営業外収益	特 別 収 益	計
入	35,928,000	64,500,000	0	100,428,000
支 出	営 業 費 用	営業外費用	特 別 損 失	計
出	86,994,259	13,774,644	0	100,768,903
収 支 合 計	▲340,903			

■老人保健施設事業会計

(単位：円)

収 入	施設事業収益	施設事業外収益	居宅支援収益	計
入	235,555,438	42,346,313	527,930	278,429,681
支 出	事 業 費 用	事業外費用	特 別 損 失	計
出	292,230,830	12,101,593	0	304,332,423
収 支 合 計	▲25,902,742			

意見書の提出

◆脳脊髄液減少症の医療に関する意見

一、脳脊髄液減少症の治療として、一刻も早く、ブラッドパッチの治療を全面的に保険適用し、地域の病院で治療を受けられるようにすること。

二、脳脊髄液減少症と診断された患者の治療について、医療費窓口負担を無料にすること。

◆地球温暖化対策に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見

二酸化炭素吸収源として最も重要な機能を有する森林の整備・保全等を推進する市町村の役割を踏まえ「地球温暖化対策のための税」の一定割合を、森林面積に応じて譲与する「地方財源を確保・充実する仕組み」を早急に構築すること。

お詫びと訂正

7月17日発行の「議会だより113号」2頁臨時議会の記事中、平成15年は平成25年の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

総務企画課

Q 役場庁舎の暖房や駐車場、大橋歩道等の消費用の温水造成供給事業費が昨年比増加している。チップボイラーは効率的に稼動しているのか。

重油使用量も横ばいであり、設備周辺からは煙発生の苦情も聞こえる。

また、建築中の新小学校にも導入予定と聞いているが、効率的な稼動について情報の共有化をしているのか。

A 広葉樹チップの混合割合を増やし燃焼効率の向上に努めたが、気温の低下等により効率が悪くなった。重油使用量は前年度比2万リットルの減であつたが、さらに効率の良い稼動に向け改善に努める。

新小学校への導入については、現在稼動しているチップボイラーの状況を共有化している。

町民税務課

Q 6月3日の山形新聞に山形県内35市町村で2番目にゴミ排出量が少ないとの記事があつた。ゴミ分別の成果を町民にもつとアピールすべきではないか。

A 掲載された数値は、不燃物や事業系を含めたゴミの排出量である。リサイクルが進んできた結果と考えているが、生ゴミを含めた家庭から出る生活系可燃ごみは、依然として置賜管内では一番多い状況となっている。このため、可燃ゴミの多くを占める生ゴミを資源と



長井リレーセンター

産業振興課

して捉え、その堆肥化に取り組むとともに、今後PRに努めていく。

Q 観光施設の維持管理について、多額の支出があるが、これから老朽化が進み、さらに維持管理費用が必要となってくると考えられる。施設維持の考え方について教えていただきたい。

A 年々、維持管理経費の増加が考えられるが、それぞれの施設が持つ機能を発揮できるよう、維持管理の検討を行っていき

Q 指定管理委託している交流施設の中で、利用者が大きく減少している施設がある。集客のための取り組みを説明いただきたい。

A 震災の影響が大きく、年度前半の客が少なかった。新たな取り組みとして、ある施設では、民間団体とタイアップし、様々

地域整備課

な体験メニューを企画し集客に努めてきた。各施設の機能をさらに発揮できるように、維持管理に努めながら、集客に取り組んでいきたいと考えている。

Q 町内における増水地域の調査を行った訳だが、北地区と平林・駅周辺地区の住民は、大雨のたびに心配している。今回の調査結果と今後の対策を聞きたい。

A 町中心部は、現況側溝断面で維持しつつ、さらに効果的な分水方法を検討していく。平林・駅周辺地区については、大日堂踏切から下流の岩井沢川の断面が不足している

ので、関係機関と協議の上改修を進めていきたいと考えている。

教育委員会

Q 傷や、破損しているスクールバスが見受けられるが、どのような運行管理をしているか。

A 小国タクシー(株)に委託しており、異常等があつた際には、速やかに報告をいただいている。

町立病院

Q 黒字経営になっている要因は？

A 亜急性病床を活用した患者の病態に合わせた病床管理が病床利用率の上昇につながったことや、健診の拡大による増収によるものと考えている。

Q 電子カルテが導入され受診における待ち時間が長くなったと聞くが？

A 4月当初は、不慣れなところもあり時間がかかった事例もあつたが、最近はそのような事はない。

Q 医師確保の現状は？

A 現在、山形大学と連携し検討中である。

健康福祉課

Q 高齢者暮らし応援事業（除雪支援）を受ける事が出来る対象者は。

また、昨年のように雪が多く降った場合は、「シルバー人材センターだけでは手が回らない」との声が聞こえたが、問題はなかったか。

A 支援を受ける事が出来る方は、町民税の非課税世帯で、冬期間もその住宅にお住まいの方で、町内に子（嫁いだ子を除く）が存在していない高齢者の世帯となっている。

昨年の雪は、特に大雪のためシルバー人材センターでも手が回らない事があつたが、会員並びに準会委員の協力を得ながら4～6日以内には、対応できたと聞いている。今後も、シルバー人材センターと連携しながら支援をしていきたい。

平成23年度小国町財政健全化判断比率

財政指標※1は健全

		小 国 町	早期健全化基準(参考)
実 質 赤 字 比 率	一般会計の赤字額が、標準財政規模※2に占める割合。	— %	15.0%
連結実質赤字比率	全会計の赤字額が標準財政規模に占める割合。	— %	20.0%
実 質 公 債 費 比 率	全会計の償還額が標準財政規模に占める割合。	11.9%	25.0%
将 来 負 担 比 率	将来一般会計から負担されると想定される標準財政規模に占める割合。	68.8%	350.0%

※1 財政指標

財政健全化法に基づき自治体の財政悪化度をチェックする指標

※2 標準財政規模

町税、地方交付税など、自由に使える財源の標準的な規模を表す。
平成23年度の小国町の標準財政規模は37億9,464万6千円。

決算審査特別委員会報告書

9月10日、本委員会に付託された平成23年度の小国町各会計の決算審査について、12日、13日及び14日の3日間にわたり関係課長等の出席を求め審査した結果、次の意見を付して認定すべきものと決したので、小国町議会会議規則第41条の規定により報告します。

- 1 全国的な経済不況が続くなか、町内の景気低迷は年々深刻化しており働く場を求める住民も増加傾向にある。このような状況に鑑み、雇用機会の確保に努められたい。
- 2 東日本大震災以来、原子力に替わるエネルギーが求められているなか、豊富な森林を活かし木質チップをいち早く利用したことは評価できるが、その活用方法について検討されたい。
- 3 交流施設については、投資額に比較して顕著な成果が現れていない。これまでの管理方法等を検証し、さらなる努力を行うこと。

平成24年9月18日

決算審査特別委員会

委員長 遠 藤 和 彦

小国町議会議長

伊 藤 重 廣 殿

少数意見の報告

平成23年度一般会計決算は認定すべきでないとして、少数意見の報告書が提出された。

提出者 米野貞雄委員 賛成者 本間義信委員

8ヶ所におよぶ休校舎の有効利用は？ どうする!! 小国町の農業の未来!!

小 関 和 好



財産である

休校舎の有効利用
に関して

小関 現小国小学校あと地を含め、八ヶ所に及ぶ休校舎をどのように有効利用していくのか。

町長 これまでの取り組みに加え、人口減少、少子高齢化における、これからのまちづくりの地域再生策を展開する拠点施設と位置付けた活用について、地域の方々と協議を継続しながら検討していきたい。

小国小学校の跡地利用に関しては、早い機会に地元や町民の方の意見を伺い活用策について検討していく。



平成26年休校予定の現小国小学校

将来の

小国町の農業は
どうなるか

小関 小国町の将来の農業に関して不安を抱いておられますが、町長は、今後の農業に関してビジョンを持っているか。

町長 これまで、本町の農業は、「特色のある米作り」「個性のある作物づくり」「担い手の育成」の三点を中心に取り組んできている。私は、これまでの振興方針を、確実に継続することが重要であると思っている。その上で、これまで以上に地産地消の一層の推進と特産品作りに力を注ぎ、農業を主体とした新産業の創出を目指したい。

小関 今までの継続では、農業をやめる人は、後を絶たないのではないか。

町長 新たな農業組織の設立を含め、経営体が自立できるまで支える仕組み

作りも重要と考える。又、国土保全や水源涵養^{かんよう}の維持のため、小規模農家の果たす役割は、重要であると考えます。小規模農家が安心して農業を続けていけるよう対策を考える。

小関 後継者がいないのは現実問題だが、どのように考えているか。

町長 農業の担い手育成に当たって、情報の提供と交流の推進により、町内に限らず町外からも小国町で農業に従事してみたいという方々を積極的に受



増えてきている耕作放棄地



取扱量が最盛期の5分の1になったライスセンター

け入れる体制づくりが必要と考える。

今取り組んでいる「人・農地プラン」の作成により青年就農給付金や農地集積協力金などの制度支援を受ける事が可能となり農業後継者の育成、農地の集積化が期待されると考える。

問題は、多くあるが経済環境が大きく変化している中であつて、基幹産業としての農業による新たな産業創出に向けた早急な取り組みが必要であると認識している。



高齢者対策で 雇用の確保を

本間 義信

本間

7月27日付け山形新聞の「新小国町長に聞く」

で、「学校給食や福祉・医療の産業化による雇用を考えたい。しかし、これだけで町内に職を求める人の数を吸収するのは難しい。時間をかけて町内での産業を創成したい。その一つの方向性は再生可能エネルギーである。」さらにスローガンの「二万人復活の町づくりで」では、「高齢者と子育てへの支援が二本柱。国の制度を使って、廃校舎を特別養護老人ホームや共同住宅に活用し、高齢者支援のモデル地区にしたい。」と抱負を語っている。

この高齢者支援については、私も非常に期待している一人である。

具体的にどのように実践しようとしているのか。

**空き校舎を活用して、
高齢者支援を検討**

町長 私はこのたびの選挙で「人口一万人復活のまちづくり」を基本政策に掲げ

この実現に向けて「高齢者支援」、「子育て支援」、「新産業の創出」の大きく三つの柱に沿い、様々な角度から具体的な施策展開を推進しながら、雇用の創出に結びつけて行きたいと考えている。特に「高齢者支援」についての質問だが、本町の高齢化は年々進行しており、本年4月1日現在の高齢化率は、33・3%であり、県平均、全国平均を大きく上回っている現状にある。

町では現在、高齢者の方が可能な限り住み慣れた地域で、自立した日常生活を営むことができるよう、地域や集落内における相互扶助機能の維持、向上を目指す「支え合いホットライン事業」の展開や、介護保険計画に基づく各種介護サービスの提供に努めているが、そのニーズは複雑・多様化していると承知している。



小玉川小中学校

の不安は深刻である。その結果として、町を離れる事を選択せざるを得ない切実な状況もあると伺っている。こうした町外に転出する人を防ぐための対策の一例として、空き校舎をケアハウス、サービス付き高齢者専用住宅などの小規模な多機能型複合施設として活用した高齢者支援のモデル展開に向けて、総合特区制度の認定など、国の制度を活用した整備について、関係機関へ積極的な働きかけを行いながら検討していきたいと考えている。



白沼小中学校

今後はより一層、新しい発想を取り入れながら、中・長期的な視点に立ち、医療、福祉、介護の産業化に取り組み、新たな雇用の創出に結び付けていくことを目指していきたい。

■その他の質問

- 廃棄物処理裁判について
- 学校給食の1年以内の実施について
- 新小国小学校の建設について

一万人復活のまちづくり = 町政執行、積極果敢に =

小 林 嘉



若者の雇用が キーポイント

小林 新町長は、厳しい船出になるが、私は是々非々の立場で臨む。一万人復活は若者の雇用創出がキーポイント。具体策を伺いたい。

三つの柱で 施策展開する

町長 医療、福祉に係る産業化。子育て環境づくりで一定の雇用を創出。農業の振興と自然資源を活用した新産業創出が重要。

「小国町緊急景気・雇用対策本部会議」で現下の雇用対策を検討、中長期的には再生可能エネルギー活用（木質、小水力）に取り組む。

お産、人工透析、 大賛成

小林 小国町立病院で、お産や人工透析ができる環境整備は、可能なら大賛成。お産は、医療事故のリスクや山大医学部方針で医師確保ができないため、地域の基幹病院に残念ながら移行

した。人工透析も医師やスタッフの確保が課題と聞いている。どのように実現するのか伺いたい。

現実には難しい 問題がある

町長 本町の地理的条件を勘案し、何とか環境整備を図りたく公約に掲げた。現実的には、医師の確保をはじめ、施設整備、マンパワー不足など、非常に難しい問題がある。いま取り組んでいる施策の充実を図りながら、いかにすれば可能となるか検討していく。

給食は 地産地消が基本

小林 給食は食育、食育は地産地消が基本。小中学校完全給食、1年以内実施の具体策を伺いたい。

食育の重要性を 十分認識

町長 外部委託方式で実施する。学校における食育に結びつく献立作りとともに、

食材はできる限り地元農産物を使用する。

組織再編は どのように？

小林 時代のニーズにあった役場組織再編とは、どのようなイメージか伺いたい。

スピード感で 展開する組織

町長 人口減少、少子高齢



一万人復活を目指して

化への急激な変化を最も重要な行政課題と認識し、方策議論のため、本年10月から外部有識者を加えた「まちづくり戦略会議」を設置する。今年度は、空き校舎を活用した集落拠点機能づくりを検討し、来年度モデル地区を選定し具体的に取り組む。スピード感をもつて展開していくため、新年度に組織機構の再編を行う。

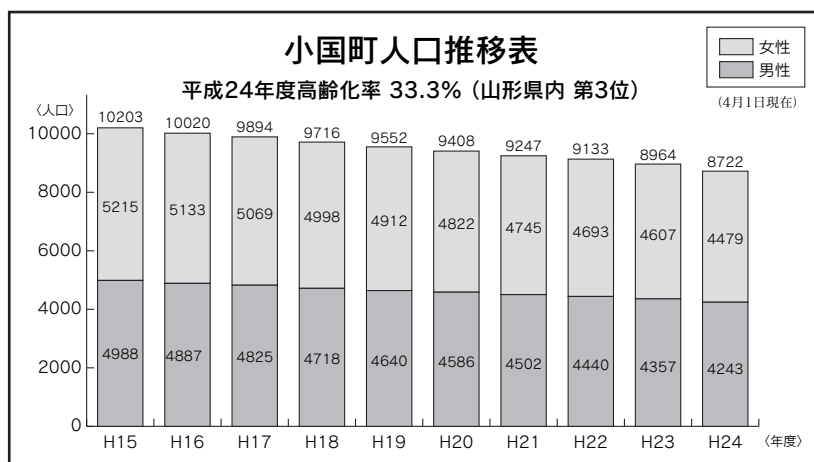


ムダ・ムリ・ムラのない 町政を!

齋藤 弥輔

公約の実現について
一万人復活の
具体的施策は

齋藤 高齢者支援、子育て支援、新産業の確立、人口の流失ストップ等は今まで小野町政でも行ってきた事。就業人口が3975人(国勢調査平成22年)と減少している状況下で、任期四



年間で一万人復活のためには、毎年減少分(200人弱)をカバーし、300人ずつ増やすことは並大抵のことではない。
任期中に減少状況が続き、8000人を割ることのないようにしていただきたい。

町長 中・長期的な施策事業を展開し、新たな雇用の創出を図る。具体的には、空き校舎を利用した雇用対策など展開する。

小中学校の完全給食の一年以内の実施は

齋藤 26年2月28日完成予定の小国小学校新校舎には、小中学校の給食室も計画されていると聞く。他議員の質問には外部委託を行い、来年4月から実施と答弁されているが、外部委託は町内なのか。

町外なのか。また、学校給食法の衛生管理基準に適合の業者か。

町長 町内の業者で学校給食法の衛生管理基準に準じる業者を選定する。

齋藤 食育の重要性を言っているが外部委託で「食育」とのつながりはどうなのか。

町長 地産地消を含め、教育委員会と学校で献立を決める。

齋藤 1年間だけで外部委託をやめるのか。26年度からの叶水小中学校への給食はどうするのか。

町長 外部委託は暫定的に1年間だけ。

26年度からは叶水小中学校へは外部委託はしない。

齋藤 外部委託の経費はどれくらいかかるのか。

町長 算定中はまだ出ていないが、施設整備には経費

は発生しない。

学校の
環境整備について

齋藤 新しい小国小学校には木質チップを利用した暖房や、空調などが計画されている。小国中学校は連日の猛暑の中、暑さとの我慢大会のように頑張っているが熱中症という危険性の中これでもいいのか、「小国の宝である子供達」の為、環境を整える事も必要ではないか。

町長 教育環境にはハード、ソフト両面から整備を図っていく。小国中学校は統合の受け入れ校として、現在耐震工事を進めているが特に今夏の猛暑から非常に厳しい環境にある。

新しい小国小学校は近年建設している学校等を参考にし、整備を計画している。小国中学校においても、より学びやすい学習環境の整備について学校関係者と協議し、新しい小国小学校との均衡を図っていく。

小国町における 今後の農業振興は

遠藤和彦



耕作放棄地対策が 大きな課題

遠藤 総農家の経営面積は、平成23年は960haあり、うち水田耕作が574haで耕作放棄地が58・9haに上っている状況にある。優良農地の確保、集落の維持、景観保全、鳥獣被害の増大等からも耕作放棄地対策が大きな課題となっているが、町長の考えを伺いたい。

町長 平成21年度に小国町耕作放棄地対策協議会（現在の町地域農業再生協議会）を設立し、国の緊急対策事業の補助対象外となる農振農用地以外の農地についても、農地の確保と環境保全に加え、景観上の観点からも改善を図る必要がある。町単独事業による「遊休農地等保全事業」を実施している。今後耕作が可能か判断に至っていない農地を含め、耕作放棄地は58haと把握され、このうち、簡易な復元作業で再生可能な農地は、11haと試算している。残りの47haについては、大

規模な復元作業が必要であるか、すでに復元不可能な農地であるというのが現状。今後再生が可能な農地の改善作業を支援するとともに、耕作放棄地の要因と課題を整理し、対策に努めていく。

担い手対策と 新規就農者育成は

遠藤 担い手対策と新規就農者支援育成にも力を入れるべきと思うが、町長の考えを伺いたい。

町長 担い手の現状としては、認定農業者の4割が65歳以上であり、平均年齢も57歳を超えている。将来の後継者確保と新規就農者育成は急務であり、本町農業を将来にわたって持続的に発展させるためには、欠くことの出来ない課題であると認識している。本年度予算にも農業機械の新規導入と更新のためのリース事業費に対する支援を措置するなど対策を講じている。「人・農地プラン」による青年就農給付金事業についても、町の計画策定が必要なこと

から、積極的に各地域に入り、地域農業の将来を見据えた計画策定に取り組む。

学校給食と 町内農産物の 利用拡大は

遠藤 食育、農業振興を目的とした、小中学校完全給食を1年以内に実施すると町民に公約しているが、町内農産物の利用拡大や地産地消の仕組みづくりとからめ、どのように実施するか伺いたい。

町長 学校給食で生産・流通の体制の整備を図ることとし、昨年、山形おきたま農協、町教育委員会、町の



耕作放棄地に有効な水田放牧

三者で基本協定を締結した。供給目標年次は、学校給食の完全実施が本格化する平成26年度に設定されているが、来年度は外部委託方式による給食にあたっては、供給体制を継続することに加え、町内産の農産物をできる限り確保できるよう関係者と協議しながら取り組む。来年度は、学校給食用農産物の生産・流通体制の試験運用及び既存の供給体制を整え、平成26年度以降は、段階的に地産地消率を向上することにより、町内農産物の利用拡大に努めて行く。

委員会レポート

文教産建常任委員会のとりくみ

—雇用を創る—



文教産建常任委員会の様子

町内の雇用経済情勢の急激な悪化により、これに伴う町民生活は年々深刻になっている。

特に、今年度はこれまで小国町の経済を支えてきた中核企業の構造改革により多数の離職者がでた。これにより、町の経済は一段と厳しくなることは、だれの目にも明白である。

このような状況下にあつて、文教産建常任委員会では、「いかに雇用を創りだしていくか」ということを大きなテーマとして検討を続けている。しかし、テーマが大きすぎることや、広範囲にわたることから、非常に難しい問題である。

これまでは、役場内部の担当課や商工会との話し合いの中から、現状や課題を抽出し、雇用機会の創出に結びつけていくため、次の三つに絞り議論している。

一 農業や林業、観光などの地域資源をどう活かしていくか。

二 雪、水力、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーをどう活用していくか。

三 交流人口の拡大を図りながらいかに雇用の場を生み出せるか。

さらに今後は、どんな仕事があれば小国町に残りたいかという視点で、中学生や高校生に対し、アンケートや意見交換をしていく予定にしている。

いずれにしても、重要な課題であり、町と議会が足並みをそろえて取り組んでいきたい。



商工会との懇談会

議会の動き

7月
8月
9月

■臨時会

- 7/10 ● 第6回臨時会
- 8/28 ● 第7回臨時会

■定例会

- 9/10・9/18 ● 第8回定例会

■議会運営委員会

- 7/10 ● 第6回臨時会の運営について
- 8/28 ● 第7回臨時会の運営について
- 9/3・10 ● 第8回定例会の運営等について
- 9/18 ● 第8回定例会最終日の運営等について

■総務厚生常任委員会

- 7/17 ● 所管事務調査 (総務企画課)
- (町民税務課)
- (健康福祉課)
- 9/11 ● 請願審査

■文教産建常任委員会

- 6/26 ● 委員会活動方針について
- 7/6 ● 所管事務調査 (教育委員会)
- 小国小学校改築工事にかかる公募型指名競争入札について

(産業振興課)

- 7/18 ● 町内の景況状況について
- 委員会の活動方針について
- 小国町商工会との懇談会
- 8/10 ● 所管事務調査 (教育委員会)

9/11

(産業振興課)

- 新小国小学校の建設関係等について
- ふれあいの家の建設関係等について
- 町内の景況について
- 所管事務調査 (地域整備課)
- 渇水状況について
- 請願審査

■議会広報特別委員会

- 8/28 ● 広報編集方針等について
- 9/11 ● 広報編集方針等について
- 9/12・13 ● 各課決算審査記事内容について
- 9/26 ● 広報編集作業
- 10/1 ● 広報編集作業
- 10/9 ● 広報編集校正

■決算審査特別委員会

- 9/11 ● 決算審査特別委員会の運営等について
- 9/12 ● 決算審査 (総務企画課・地域整備課・教育委員会)
- 9/13 ● 決算審査 (産業振興課・町民税務課)
- 9/14 ● 決算審査 (健康福祉課・町立病院・老健施設)
- 意見のまとめ等について

まちかど Machikado-Interview インタビュー

町の人から
ちょっとひとこと



Qプロフィールを教えてください。

A氏名 大石 絃子
年齢 二十七歳
出身 熊本県熊本市
趣味 旅行

Q就職先に小国を選んだ理由は何？

A大学の時に五味沢の熊狩りに同行させてもらった。それから度々うさぎ狩りなどに連れて行ってもらい、五味沢の人達や小国の山が好きになつてしまひ今に至つた。

Q住んでみてよかった事は？

A山に行く機会が増えた。山の景色や空気や水は素晴らしいし、食べ物もいい。不便さはあるが、

日常生活の豊かさは、都会では味わえない。

Q住んでみて困った事は？

A古紙や瓶等を出す日がとても少ないことや、多くの店が午後八時ごろ閉まつてしまうことに戸惑つた。しかし、慣れてしまふとなんでもないことだと思ふ。

Qこれからやってみたい事は？

A米や野菜を自分で作つてみたい。

Q小国町のことが足りないと思ふ事は？

A接客など方法がある程度決まつている事に関して今の状況を改善していかうとか、新しい方法を取り入れようとかといった考えがあまりないように思ふ。特に町外から来る人にどう見られているかという意識は薄いと思ふ。



十三峠イベントで活躍

表紙の言葉

稚児行列



大宮

小関佳雄

観に来て頂き、素晴らしい稚児行列を行うことができました。まるで平安時代のような姿の子ども達は、本当にかわいらしかったです。町民の皆様には暖かい御協力を頂きありがとうございます。

大宮神社鎮座千三百年祭の行事のひとつとして、稚児行列の二十数年ぶりの復活に向け一年前から話し合いを重ねてきました。以前、稚児行列に携わったことのある地元的女性部の方々にスタッフとして協力をお願いしましたが、久しぶりの事で手探り状態でした。



大宮神社で記念写真

次は12月定例会です。

傍聴においでください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局(62)2448

編集後記

■実りの秋を迎え、今年の宮中新嘗祭には、大石沢の栗(虎の尾)と田沢頭の米(つや姫)が献穀されます。山口、石垣両ご夫妻の一年間の精進を称えるとともに、小国産の宮中献穀を素直に喜び合いたいと思います。

■今議会の盛田新町長の所信表明は、「町民主役のまちづくり」の基本理念とともに、開かれた町政を一層進めるとして「出前町長室」「歩く町長室」の開催を述べております。

■議会は、次回の定例会からインターネット中継を開始する予定です。議会だよりも、一層の紙面充実に努めてまいります。

小林(記)

発行責任者

議長 伊藤 重廣

議会広報特別委員会

委員長 小林 嘉

副委員長 小関 和好

委員 齋藤 弥輔

委員 遠藤 和彦